

特別自治市講演会議事概要

- 日 時：平成 29 年 2 月 28 日（火）15：00～17：00
- 場 所：遠鉄百貨店新館 8 階えんてつホール
- 出 演 者：大杉覚氏 首都大学東京大学院社会科学部教授（講師）
鈴木康友 浜松市長
- 司会進行：廣木弓子
- 参 加 者：110 名（うち市民等約 50 名）
- 議事概要：以下のとおり

浜松市長挨拶

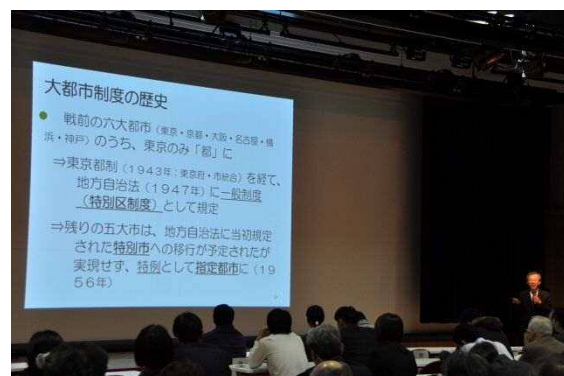
（要点）

- ・浜松市は平成 19 年に政令指定都市へ移行し、県と同等の権限や財源を有すると言われたが、実態はかなり違っている。
- ・「特別自治市」という言葉は一般の皆様は聞き慣れないと思うが、権限や財源をすべて県から市に移して独立するものである。行政サービスの多くは基礎自治体である市が実施していることから、基礎自治体が自立することが一番であり、自然の流れである。
- ・明治以降、中央集権が推し進められたが、今は地方が自ら頑張る地方創生の流れであり、その究極の姿が特別自治市となる。
- ・今回を通じ市民の皆様に応援団になってもらい、その理解を深めるきっかけになればと思う。

第 1 部 基調講演（大杉講師）

（要点）

- ・市民に向けて特別自治市を考える場を設けることは、非常に重要である。
- ・近年、人口減少が国全体の課題として挙げられているが、人口減少により公（行政）・民（市場）・共（地域コミュニティ）すべてで基礎的生活支援サービスの隙間が広がり、自助で補う部分が拡大することで様々な問題が生じる社会となる。この隙間は逆にチャンスと捉えることもできる。
- ・人口減少の時代において、鳥の目で考え、虫の目で活動することが必要なことである。また、近年、規模や尺度を変える「リスケーリング」という手法を地方制度改革に活用する例が世界的に増えている。浜松市が合併し、政令指定都市として区を設置したこともリスケーリングの一つと言えよう。ドイツの事例だが、州の境界を越えて都市地域圏を形成する「シティリージョン」が進められている。国境を越えてシティリー



ジョンを形成する例もある。

- ・浜松市が特別自治市を目指すため、鳥の目を使ったアップスケーリング、虫の目を使ったダウンスケーリングを用いて都市戦略を考え、3ゲン（ニンゲン・ケンゲン・ザイゲン）をしっかりと確保し大都市としての経営体制を構築することが重要である。
- ・大都市制度の歴史を振り返ると、戦前の六大都市のうち、東京のみ戦時中の東京都市制を経て、戦後、特別区制度が適用された。残りの五大都市は特別市が実現せず、政令指定都市となった。その後順次拡大し、現在では20の都市が政令指定都市となったが、指定都市制度は長い間変わっていない。
- ・浜松市は思いのほか法人市民税のウェートが低いことに驚いた。横浜市など、一般に個人課税のウェートが高い市ほど特別自治市に積極的な印象がある。特別自治市を目指すため、鳥の目を持って広域連携を推進し、虫の目を持って地域力の維持・向上をサポートするための都市内分権の構築を行うことが大切と考える。

第2部 対談

(司会) なぜ浜松市は特別自治市を目指しているのか。

(市長) 考えとして大きく3つある。1つ目は、行政サービスの多くは市が実施していることから、市で完結すべきであるということ。浜松市は佐賀県と人口・面積ともにほぼ同じである。実感として、40～50万人の規模があれば自立可能である。2つ目は、基礎自治体が自立すれば県は消滅することは自然なことで、いずれは道州制になるべきであると考え。3つ目は、昭和22年の地方自治法には「特別市」という制度があったが、昭和31年の改正で廃止され、代わりに指定都市制度ができてしまったことから、特別市と同様の特別自治市を復活させたいということである。



(講師) 確かに40～50万人の規模があれば経営は可能である。現在、都道府県は47あるが、市町村との関係の実態は都道府県により大きく異なる。

(市長) 都道府県が47でなければならない根拠はない。明治時代に府県の合併と分割が行われその後、長い間変わっていない。

(司会) どうすれば特別自治市になれるのか。

(講師) 必要なことは法改正である。どのような形の特別自治市とするか議論の余地があるが、まずは地域住民の理解が重要である。

(司会) 特別自治市に向けて浜松市はどのように取り組んでいるのか。

(市長) 指定都市市長会として、指定都市を応援する国会議員の会における国会議員への働きかけや中核市・特例市との連携による国への働きかけなどを実施している。

(司会) 静岡県知事は浜松市の特別自治市への取組は賛成しているのか。

(市長) 知事は、浜松市が特別自治市として独立することに賛成している。浜松市は元々浜松県として存在しており、天竜川以西の独立は考えやすい。また、県庁所在地でな

く県有施設が少ないという点も都合がいい。

(司会) 独立した後の県との関係性はどのように考えるか。

(市長) 警察は原則県から切り離しても問題ないと思う。防災は連携した方が県市双方にとってメリットがある。市は消防組織を持っているため災害時の役割は大きい。

(司会) 今後どのように地域連携を深めていくのか。

(市長) まず言いたいのは、今の浜松市は合併を経て形成されているということである。合併していなければ、増田レポートに言う「消滅可能性都市」の中に県西部の多くの市町村が挙げられていただろう。さらに、広域連携として遠州広域行政推進会議やSENAの取組を進めているが、これらは基調講演にあったドイツの「シティリージョン」に相当すると言えるだろう。

(講師) 現在の浜松市は広域連携を組み込んでいる。県境を越えた三遠南信地域のつながりは大きなポテンシャルである。合併して10年以上が経過し、全市の一体感が醸成されてきた中、これからの浜松市を考える上でこうした点も踏まえる必要がある。

(司会) 特別自治市への抱負や市民へのメッセージはあるか。

(市長) 基礎自治体に権限や財源が集まり、自立することが理想である。都市経営がしっかりすれば全国モデルとなる。現在、浜松市は、ムーディーズという格付け会社から高い評価を受けるなど、健全な都市経営のお墨付きを得ている。特別自治市になるための法改正に向け、国への働きかけを続ける。何より市民の理解が重要であると考えている。

—質疑応答—

(司会) 本日は地方自治を学んでいる地元の大学生をお招きしており、順に質問を伺いたい。

(大学生①) 特別自治市になるためのスケジュールはどうか。

(市長) 法改正には国会の審議が必要であることから、現時点で具体的なスケジュールを示すことは難しいが、特別自治市の推進は3つの段階を踏んでいくことで県とも合意しており、既に第1段階として県から権限移譲を進めている。

(大学生①) 特別自治市となった場合、災害対策におけるスピード感はどうなるのか。

(市長) 特別自治市となることで、自らの権限で進めることができるため、一層スピードアップする。一例を挙げると、現行制度では自衛隊の要請を市が直接行うことはできないが、特別自治市となることでこれが可能となる。

(大学生②) 特別自治市による広域連携の強化は、今後、合併につながるのか。

(市長) 平成の大合併で、合併は一段落している。特別自治市にメリットを感じ、合併によって自立を目指すことも考えられるが、各自治体の判断である。

(大学生③) 特別自治市における住民自治として、市民の参画についてどのように考えるか。

(市長) 市民自ら運営することが究極の住民自治であり、市がこれをサポートする形としたい。例えば、協働センターの運営をモデル的に住民に任せる取組を進める。

(大学生③) 権限の移譲に伴い、見合った財源移譲があるのか。

(市長) 特別自治市は、権限を一つずつ移譲するのではなく、市に丸々移譲するかわりに、県税もすべて市のものにするというものである。

(講師) 特別自治市は二重行政を完全に解消するものだが、都区制度では特別区を置くため、そこに二重行政が発生する余地が残る。

(傍聴者①) 特別自治市にける警察事務の扱いをどう考えるか。もし、特別自治市警察が新たに置かれるとなると、芦田・吉田両内閣の時の警察の二元化問題を再び引き起こすのではないか。

(市長) 歴史的経緯の難しさはあるが、現在でも市警察部の設置など、政令市には特例の取扱いがある。警察事務と一口に言っても、犯罪捜査もあれば信号機の設置など道路交通に関するものなど様々である。犯罪捜査は道州が担い、その他のものは特別自治市でよいのではないか。

(講師) 特別自治市の議論の中で、警察の扱いは非常に難しい問題である。市にすべて移すという考え方もあれば、薄皮として県に残す考えもある。権限は一旦市に移した上で、処理は県に一本化し、市が費用負担するという意見もある。ただし、例えば公道でのカフェ営業の許可を警察ではなく、市や地域の判断でできるようにするという大きな流れがある。

(傍聴者②) 直虎ブームの今、例えば恩塚山古墳などの旧所名跡につながる道路等を整備して、観光客と市の収入増を図ることも、特別自治市となればやりやすくなるのか。

(市長) 道路に関する事務は既に市に移譲されているが、それに伴う財源も十分に移譲されているかは疑問がある。特別自治市になることによって、こうした財源の問題もクリアとなり、市が責任をもってインフラ整備できるようになる。

(講師) 特別自治市いかに関わらず、地域の資源を有効活用する視点は重要である。その上で、地域の中で市民同士の考える場づくりが大切だと考える。